

# 東京有明医療大学 保健医療学部 鍼灸学科 第2回海外研修記

—ボストン研修2013—

松 浦 悠 人      高 倉 伸 有

東京有明医療大学 保健医療学部 鍼灸学科

## 「ボストン研修2013」概要

### 【研修目的】

本学の教育理念に掲げられている「国際性に富む有為な人材を育成する」ため、

1. 世界の鍼研究を牽引する科学者の講義を体験する。
2. アメリカにおける鍼灸の教育機関や研究機関での研修や見学を通じて、グローバルな視点を持った鍼灸学士となるための意識を高める。
3. アメリカの生活、文化、自然、歴史などに触れ、人生観や世界観を広げる機会とする。

### 【研修内容】

1. Harvard Medical School のKaptchuk教授（本学鍼灸学科客員教授）、Kong准教授（本学鍼灸学科客員教授）による講義と、両先生との学術的交流
2. New England School of Acupuncture（アメリカの鍼灸学校（大学院大学））での体験授業、世界一の脳科学研究所で鍼灸の研究機関としても名高いMartinis Center for Biomedical Imaging, Harvard Medical SchoolおよびMassachusetts General Hospital等の施設見学
3. Boston市内でのField work

### 【研修スケジュール】

#### 9月10日（火）

15:55 成田空港発（デルタ航空622便）

……<日付変更線通過>……

ミネアポリス（ミネアポリス国際空港）経由（デルタ航空2062便）

19:14 マサチューセッツ州ボストン市General Edward Lawrence Logan空港着

20:45 Sheraton Boston Hotel到着

#### 9月11日（水）

AM New England School of Acupuncture（NESA）にて研修

- Susan最高経営責任者兼校長挨拶
- Diane先生講義・実技実習「経別治療」（NESAの学生の皆さんとともに）
- Joe先生講義「アメリカの鍼灸事情」
- NESA施設見学

Lunch NESAにてBig pizza lunch Party

PM ハーバード大学 ハーバードクープ周辺見学・散策

#### 9月12日（木）

AM ボストン市内散策

- PM Kaptchuk先生のオフィスにて ミニトーク  
Harvard Medical School見学・関連病院周辺散策（Kaptchuk先生のガイドによる）  
Beth Israel Deaconess Medical Centerにて研修  
• Kaptchuk先生講義  
「Components of placebo effect」

9月13日（金）

- AM Martinos Center for Biomedical Imagingにて研修  
• Kong先生講義  
「Expectancy and treatment interaction : A dissociation between acupuncture analgesia and expectancy evoked placebo analgesia」  
「An fMRI study on the interaction and dissociation between expectation of pain relief and acupuncture treatment」  
• Rosa先生講義  
「Martinis CenterとfMRIについて」  
「Longitudinal study of effects of acupuncture treatment (sham and real) on knee Osteoarthritis」  
Martinis Center for Biomedical Imaging施設内・fMRI等見学  
Lunch Martinos Center for Biomedical Imaging内のカフェテリアにて  
PM Massachusetts General Hospital (MGH) 見学・エーテルドーム見学  
フェンウェイパークにてメジャーリーグ観戦（ボストンレッドソックスV.S.ニューヨークヤンキース）

9月14日（土）

- AM ボストン市内観光  
ハーバード大学・マサチューセッツ工科大学（MIT）・トリニティー教会・ジョンハンコックタワー・  
州会議事堂・ビーコンヒル・パブリックガーデン・フリーダムトレイル史跡 など  
Lunch クインシーマーケットにて  
Dinner Kong先生・Rosa先生を囲んで

9月15日（日）

- 12:30 ボストン General Edward Lawrence Logan空港発（デルタ航空1923便）  
デトロイト（メトロポリタン国際空港）経由（デルタ航空275便）  
……<日付変更線通過>……

9月16日（月）

- 17:40 成田空港着・解散

【ボストン研修2013 参加者】

東京有明医療大学 鍼灸学科

伊集院 健人（4年）・市川 勇貴（4年）・鈴木 慶太（4年）・松浦 悠人（4年）・三川 知洋（4年）  
小宮 悠輝（3年）・高柳 亜実（3年）・喜多村 崇（3年）・渡邊 康平（3年）・渡辺 海（3年）  
大栄 翔吾（3年）・鈴木 立夏子（3年）・向 ありさ（3年）・北村 武也（3年）・鈴木 サチオ（3年）  
仲村 賢人（3年）・中村 優紀（3年）・三上 晴貴（2年）・湧川 徹郎（2年）

日本鍼灸理療専門学校

上石 優子（昼本科1年）・平田 菜緒（昼本科1年）・梶間 美智子（昼本科1年）  
竹内 いずみ（昼本科2年）・新巻 茂子（昼本科2年）・加藤 美緒（昼本科2年）・芝元 祐美（昼本科2年）  
西脇 晃（昼本科2年）・鈴木 伸和（昼本科2年）・金井 友佑（夜本科2年）  
佐々木 祐樹（夜本科3年）・柳内 克尚（夜本科3年）・渡部 瑛莉花（夜本科3年）  
虎谷 恭子（昼専科3年）・山本 真澄（夜専科1年）・鈴木 理枝（夜専科3年）・永瀬 友紀（夜専科3年）

鍼灸学科 引率教員

高倉 伸有（教授）・矢島 裕義（講師）・高山 美歩（助教）・高梨 知揚（助教）・藤本 英樹（助教）

## ボストン研修2013 ～最先端の鍼研究とアメリカの文化に触れて～

保健医療学部 鍼灸学科 2 期生 研修生代表 松浦 悠人

2013年9月10日～16日、私たち鍼灸学科2～4年生19名と日本鍼灸理療専門学校生17名、総勢36名は、アメリカ東部マサチューセッツ州にあるボストンでの鍼の研修に参加した。主な研修は、鍼灸の研究機関としても名高いHarvard Medical School, Martinos Center for Biomedical ImagingおよびMassachusetts General Hospitalの施設見学、本学の客員教授で、Harvard Medical SchoolのKaptchuk教授とKong准教授の講義と先生方との交流、New England School of Acupuncture (NESA)での授業と施設見学であった。また、ボストン市内の見学や地下鉄や路線バスの経験、Fenway Parkでの野球観戦などを通して、ボストンの文化や歴史を味わった。

ハーバード大学やアメリカで最も古い鍼灸の大学院大学であるNESAの地に、自分の足で立たなければ感じることをできなかった貴重な経験ができた興奮が、今でも湧いてくる。この研修を通じて、人生観や世界観が大きく広がり、鍼灸師を目指す自分を誇りに思うようになった。

### 第1日目：9月10日（火）

13時45分に成田空港に集合し、日本鍼灸理療専門学校の溝口先生、大場先生、木戸先生に見送っていただき15時55分に成田を出発した。日付変更線を越え、ミネアポリス空港で国内線に乗り換えて、現地時間10日の19時14分にボストン空港に到着した。そこからバスでボストン市内に向かい、20時45分に、宿泊地であるSheraton Boston Hotelに到着し、ホテルで夕食をとった。

高鳴る気持ちを抑えながら、長時間の移動や時差による疲労を取るため早めに就寝し、翌日のNESAでの研修に備えた。

### 第2日目：9月11日（水）

ボストン初日の朝は、朝食の時間までぐっすり寝て疲れをとったり、ジムやプールで汗を流したりと、それぞれのペースで過ごした。朝食は沢山のフルーツやソーセージ、パンなどが用意されたバイキングで、頼めばコックさんが目の前でオムレツを焼いてくれるサービスなど、盛り沢山のメニューで、長い1日の研修をやりきるための活力を与えてくれた。

しっかり腹ごしらえをした後、バスでNESAに向かった。移動中のバスの中では全員が自己紹介をして大いに盛り上がった。これをきっかけに、専門学校の皆さんとも打ち解けることができた。

NESAは、1974年にアメリカで初めての鍼灸学校として設立された、歴史のある鍼灸の大学院大学である。大学を卒業した学士号を持つ人がAcupuncturistの資格をとるために通っているため、総じて学生の平均年齢は高かった。NESAはボストン郊外の閑静な街にあり、建物はそれほど大きくはなかったが、歴史を感じるレンガ調の造りで、周囲には川や池があり、木々が生い茂る豊かな自然で囲まれていた。鍼灸を学ぶ学生や鍼灸治療を受ける患者さんにはとてもいい環境が整っていると思った。

NESAでの研修は、最高経営責任者兼校長であるSusan先生の挨拶から始まった。Susan先生は素敵な笑顔と語り口で私たちを歓迎してくださった。

最初の講義はJoe先生によるアメリカの鍼灸の歴史についてであった。アメリカでの鍼灸は、1800年代に中国からの移民によりもたらされたが、当時、鍼灸治療は違法であり、逮捕された鍼灸師がいたことや、アメリカで最初に鍼灸治療を合法的に行うことが認められたのが、カリフォルニア州のペインクリニックであったことなど、アメリカの鍼灸の歴史の一端に触れることができた。

その後、日本鍼の講義を担当されているDiane先生の授業を、NESAの学生の皆さんと一緒に受講した。この日のテーマは主に経別治療についてであった。「経別」は、「別行の正経」や「十二経別」とも呼ばれ、正経十二経脈から分かれる6対の経脈で、正経の走行の不足を補充するものである。どの経別も「心」を通るため、精神的な病の治療にも応用されることが多いとのことであった。この経別治療を、NESAの学生の皆さんと組んで、実習室で実際に体験した。

また、NESAの方に学内を案内していただき、図書館や漢方薬の調合室、鍼灸治療のクリニックなどの施設見学もした。NESAで漢方薬のコースをとれば、Acupuncturistでも漢方薬も扱えるとのこと、現代医学ではその対応が難しい患者さんを、トータルでサポートすることができるような仕組みになっていた。

研修の終わりには、アメリカサイズの大きなピザや、日本では珍しい“パンチ”というドリンクをご馳走になり、NESA特製バッグとNESAのロゴ入りのグッズをプレゼントしていただいた。そして、私たちをととても温かく迎えてくれたSusan校長先生と記念撮影をし、充実した研修を名残惜しみつつNESAを後にした。Susan校長先生はとても明るくて

優しい素敵な先生で、お別れする時に私たちひとりひとりと握手をしてくださった。そのお人柄や笑顔がとても印象的であった。

### 第3日目：9月12日（木）

午前中は郊外のショッピングモールで社会勉強、そして午後からはKaptchuk先生にお会いするためボストン市内の先生のオフィスに向かった。Kaptchuk先生はたくさんのお菓子やジュースなどを用意してくださり、私たちの訪問をととても喜んでくださった。アメリカでは、病院で働く鍼灸師はほんの1～2%で、ほとんどの鍼灸師が開業しており、ボストンは特に鍼灸院が多い地域であることなどをお話しして下さった。Kaptchuk先生の「しっかり勉強し、医療機関で仕事をして、西洋医学だけでは救えず苦しんでいる患者さんを助けてあげて下さい。そして鍼灸治療がいかに素晴らしく有益なものであるかを人々に伝えて欲しい」という激励の言葉がとても心に響いた。

Kaptchuk先生のオフィスを後にし、Kaptchuk先生自らの案内により、徒歩でHarvard Medical Schoolに向かった。綺麗なボストンの街並みを見ながら並木道を歩くだけで、その雰囲気感動した。威厳漂うHarvard Medical Schoolを見学した後、Harvard Medical School Teaching Hospital（Harvard Medical Schoolの学生の研修病院）であるBeth Israel Deaconess Medical Centerに向かった。この病院内に入ったら、講義室に着くまでは絶対に声を出してはいけないと指導があったので、病院に一步足を踏み入れてからは緊張感をさらに高めながら最上階の講義室に向かった。Kaptchuk先生の講義では、NESAの卒業生であり、鍼灸師としてアメリカで開業している阿部育実先生が通訳をしてくださった。

Kaptchuk先生の講義のテーマは「プラセボ効果」で、非特異的效果（プラセボ効果）は、①観察と評価による患者応答（ホーソン効果）、②治療的な儀式の付与による患者応答、③患者－施術者の相互関係による患者応答、の3つの要素によって構成されていると教えてくださった。そして、臨床試験におけるプラセボ効果の応答を、3つの要素に区別することが可能か、また3つの効果の大きさは異なるのかを調べたKaptchuk先生の研究「Components of placebo effect : Randomized controlled trial in patients with irritable bowel syndrome（プラセボ効果の構成要素：過敏性腸症候群の患者におけるランダム化対照試験）」のデータを用いて講義してくださった。この研究は、国際的に権威のある『BMJ』という医学雑誌に2008年に掲載された最も有名な鍼研究のひとつで、施術者の支援的な態度が非特異的效果を強く引き出し、治療効果に大きな影響を与えるという科学的な根拠が示されていた。Kaptchuk先生は、私たちが話の内容を理解できているのか、通訳された声が後ろまで届いているかなど講義中は常に私たちのことを気にかけてくださり、Kaptchuk先生が仰られていた「患者との良好な関係の構築」のために必要なものを肌で実感した瞬間でもあった。質疑応答では大学生、専門学校生から多くの質問が出たが、Kaptchuk先生は一つ一つの質問に丁寧に答えてくださり、時間いっぱいまで質問が途切れることはなかった。講義後は、Kaptchuk先生直筆のサインが入った修了証を学生一人一人に自ら手渡ししてくださった。

世界最高峰の研究施設であるHarvard Medical Schoolで、世界のこの領域での研究を牽引するKaptchuk先生の講義を体験できたことは、とても刺激的であり一生忘れられない宝物となった。

### 第4日目：9月13日（金）

この日の午前中は、Martinos Center for Biomedical Imagingを見学した。Martinos CenterはHarvard Medical SchoolとMassachusetts Institute of Technology（MIT：マサチューセッツ工科大学）が共同で設立した、脳研究では世界一の研究施設なのだそう。当然のことながら世界中の優秀な頭脳が集まっており、中には日本人もいるとのことであった。施設の中は厳格な雰囲気が漂っていることを想像していたが、廻廊式で吹き抜けが中庭になっている建物内には、多くの植物が植え込まれ、とても開放的で明るく、かつ落ち着いた雰囲気が漂っていた。

ここで研究をしているKong先生は、2009年に医学雑誌『Neuroimage』に掲載された「Expectancy and treatment interaction : A dissociation between acupuncture analgesia and expectancy evoked placebo analgesia（期待と治療の相互作用：鍼鎮痛と期待によるプラセボ鎮痛の違い）」と「An fMRI study on the interaction and dissociation between expectation of pain relief and acupuncture treatment（fMRIを用いた期待による鎮痛と鍼治療の相互・分離作用の研究）」の論文の内容を中心に講義してくださった。慢性痛のある患者さんでは、脳の機能だけでなく、脳の構造までも変化するというのは衝撃的であった。また、鍼治療に対する期待は鎮痛効果に大きな影響を与え、「患者が治療を望まない場合は、その病が治ることはなく、治療をするべきではない」という黄帝内経の教えや、ヒポクラテスの「今の状態が悪くとも、目の前の治療家に対して満足していれば病は良くなる」という言葉が証明されたような、とても興味深い内容であった。

その後、Kong先生のもとで勉強をしているRosa先生が、①Martinos Centerについて、②fMRIについて、③Kong先生の研究を基にした膝関節症に対する鍼の治療効果及び脳の活動に関する研究「Longitudinal study of effects of



acupuncture treatment (sham and real) on knee Osteoarthritis (変形性膝関節症に対する鍼治療 (シャムと本物) の縦断的研究)」について、講義をしてくださった。MRIとPETを組み合わせた実験から、膝の慢性痛があるときは、脳の特定の部位に再現性のある反応が現れること、また膝の慢性痛は脳の連絡回路が破壊されるため、この連絡回路が改善されれば慢性痛が改善される可能性が示されたということであった。この研究では、偽鍼治療よりも本物の鍼治療の方が、治療効果が高いという結果が得られており、Rosa先生から、「慢性痛を有する変形性膝関節症患者には自信を持って鍼をして下さい」との言葉をいただいた。

夕方は、Boston Red Soxの本拠地で、アメリカでは最も古く伝統のあるFenway Parkでメジャーリーグを観戦した。Red Soxはこれまでも日本人選手が多く在籍しており、日本でも馴染みの深い球団である。試合開始前の球場周囲では、音楽隊やストリートライブをするバンドなど、人だかりができる様々なイベントが催されており、まるでサーカスのような盛り上がりだった。日本の球場とは全く違う雰囲気、試合のたびにお祭り騒ぎをしているのかと驚いた。私たちが観戦した試合はBoston Red Sox 対 New York Yankees戦で、球場内は異常なほどの盛り上がりであった。しかも、Yankeesの先発投手は黒田投手で、打者ではYankeesイチロー選手、Red Soxの中継ぎとして田澤投手が登場するというラッキーな展開であった。さらにラッキーなことには、試合の締めくくりはRed Soxのクローザーである上原投手の活躍で、地元のRed Soxが勝利した。多くの日本人選手の活躍した試合だったからか、スタジアムにいた周囲のアメリカ人にハイタッチを求められ、なんだか誇らしい気分になった。

#### 第5日目：9月14日

5日目にはボストンの歴史と文化に触れるということで、ボストン市内を観光した。

最初にハーバード大学に向かった。ハーバード大学はアメリカ最古の高等教育機関であり、世界の著名人が吸った空気を、私たちも吸ってきた。ハーバード大学の構内にはリスの姿があちらこちらで見られ、緑が豊かで広く、いくつもの椅子が並べられ、テキストを持った学生たちが談笑していた。構内にあるハーバード大学創始者、ジョン・ハーバードさんの銅像は、左足先だけ色が変わっていた。昔からこの銅像の左足を触ると賢くなるという言い伝えがあり、ここに訪れた世界中の人々が左足を触っていくからだということだった。

ハーバード大学内を散策した後は、ボストン中心街にあるビーコン・ヒルそしてアメリカ最古の都市公園であるボストン・コモン公園を散策した。ボストンと言えばまさに「ニューイングランド」の代表的な場所であり、市街には古いレンガ造りの大きな建物がたくさん見られた。古い街並みのなかで、最も有名で、文化的にも非常に価値が高く、居住場所としても人気でハイソな場所が、ビーコン・ヒルである。ビーコン・ヒルの通りも非常に美しく、ニューイングランドの歴史と文化を感じることができる場所だった。

夜は夕食を終え、ホテルに戻り、これまでのボストンでの出来事を思い返し、仲間と遅くまで話し込んだり、疲れを癒すために早く寝たりと、それぞれがボストンでの最後の夜を有意義に過ごした。

#### 第6日目：9月15日 / 第7日目：9月16日

最終日は早起きをして朝の散歩をした。朝日が差し込むボストンの街並みは、昼や夜とは違った雰囲気があった。とても綺麗で癒されるボストンの風景だった。

9時40分にボストン空港を出発し、デトロイト空港を経由して成田空港に向かった。出発の際、日本に台風が接近しているとの情報があり、どうなることかと思ったが、到着時間が少し遅くなっただけで、全員無事に成田空港に到着した。

ドキドキしながらKaptchuk先生に質問したこと、難解なKong先生やRosa先生の講義、Susan先生の笑顔、Fenway Parkでの大興奮、そして専門学校の皆さんとの交流、7日間の思い出は、どれをとっても終生心に残る大切な大切な財産となった。振り返ると、またこの研修に参加する機会に恵まれたら、と思わずにはいられない。Kaptchuk先生の「しっかり勉強し鍼灸治療がいかに素晴らしく有益なものであるかを人々に伝えて欲しい」という言葉を胸に、この経験を今後の人生に生かしたいと思う。

櫻井理事長先生、佐藤学長先生、高倉先生をはじめボストン研修を実現させてくださった先生方、添乗員の穴吹さん、そのほか研修を支えてくださった多くの皆様に感謝します。本当にありがとうございました。

## 「ボストン研修2013」を振り返って

保健医療学部鍼灸学科 学科長・教授 高倉 伸有

平成25年9月10日から16日までの1週間、東京有明医療大学鍼灸学科の学生19名と、渋谷の日本鍼灸理療専門学校生17名、引率教員5名、総勢41名で第2回鍼灸学科主催「ボストン研修2013」を実施しました。主な研修先はNew England School of Acupuncture (NESA)、Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School, Martinos Center for Biomedical Imaging, Massachusetts General Hospitalでした。

今回は専門学校生も加わって、研修旅行は大変盛り上がりました。大学生たちは、社会経験の豊富な専門学校生から大いに刺激を受けたようです。専門学校生の中には、英語が堪能で、海外旅行のエキスパートや留学経験がある方などが大勢いて、研修先でも非常に助けられました。前回の初めてのボストン研修の際は不安な気持ちのまま成田を出発しましたが、今回は、経験豊富な専門学校生の皆さんの参加もあり、幾分余裕をもって出発することができました。本研修では、できるだけボストンの学生街の空気に触れてもらおうと、団体用のバスを使わず地下鉄や路線バスを使っただけの移動を多く盛り込みました。旅先で36人をまとめて、迷子を出さずに予定をつつがなくこなせるか心配もありましたが、受け入れ先の先生方、学生たちの協力、引率の先生方のフォローのお蔭で、すべての研修を無事に終え、揃って帰国することができました。特に講義での、専門学校生の活発な質問、それにつられた大学生の質問、それに丁寧に答えて下さる先生方の姿など、とても有意義に過ごした時間が昨日のこのようによみがえってきます。

このボストン研修は、鍼灸学科の客員教授であるHarvard Medical SchoolのTed Kaptchuk教授とJian Kong准教授、またMartinos Center for Biomedical ImagingのBruce Rosen所長、New England School of AcupunctureのCEOでもあるSusan Gorman校長のご協力により実現することができました。

Kaptchuk先生は、Harvard Medical Schoolの教授であると同時に、Beth Israel Deaconess Medical CenterのHarvard-wide Program in Placebo Studies and the Therapeutic Encounterの部門長、さらにThe Department of Global Health and Social Medicine at Harvard Medical Schoolの講師もされる、代替医療の研究では世界的に有名な科学者です。Ted先生の研究成果は、『New England Journal of Medicine』『The Lancet』『British Medical Journal』『Journal of American Medical Association』など、世界の医学をリードするトップジャーナルをはじめ、高いインパクトファクターを誇る医科学専門学術誌に、多数掲載されています。私たちにとっても雲の上の先生であるTed先生が、オフィスでお茶やお菓子を用意して、私たち一人一人を温かく迎えて下さり、講義では学生たちにとても親しく語りかけ、質問には丁寧に温かく答えてくださり、本当に感激しました。学生にとっては、一流の研究者の息づかいに触れる良い機会になったと思います。

Jian先生は、Harvard Medical School精神科の准教授、Massachusetts General HospitalのAssociate Researcher で脳の研究では世界最高峰のMartinos Center for Biomedical Imagingの研究者のホープの一人で、fMRIを使った鍼、痛み、プラシーボの研究では世界的に名前を知られている研究者です。Jian先生の研究は、つい最近『Human Brain Mapping』という著名な米国の脳科学専門雑誌に発表されるなど、『Proceedings of the National Academy of Sciences, USA』『Pain』『Neuroimage』などの有名な学術誌に次々と掲載されています。Martinos Centerはセキュリティが非常に厳しいところですが、Jian先生とBruce所長の特別な計らいで、施設内の見学もさせていただくことができました。Bruce所長は、Radiology at the Harvard Medical School とHealth Science and Technology at the Harvard-MIT Division of Health Sciences and Technologyの教授を兼任しています。世界の functional neuroimagingをリードする研究の現場も直に見学することができ、普段の授業では力が入らない学生の皆さんも、最先端を走る研究者の張りつめた緊張感を感じてか、真剣なまなざしで実験の様子に見入っていました。

Susan先生は、2012年にNESAの第6代校長兼最高経営責任に就任し、研究、NESAの改革、地域や大学等とのパートナーシップの構築など、精力的にNESAの発展を推し進めています。とても優しく親しみの持てる先生で、私たちの訪問を大変喜んでくださっている様子でした。前回に続き、今回の研修でも、20年間日本式鍼治療を実践し広めているDiane Iuliano先生の経絡治療の授業や実習を体験させていただきました。Diane先生は、Mount Auburn Hospital (NESAのサテライトクリニック)の婦人科鍼クリニックのスーパーバイザーで、Massachusetts General Hospitalの臨床研究にも携わっておられます。

NESAでの研修、Ted先生、Jian先生、Rosa先生の講義と、学生の皆さんにとっては緊張の連続だったと思いますが、最終日のFenway Parkでの大興奮で笑顔がはじけ、アメリカの文化を大いにエンジョイしたようでした。大学生は、専門学校生のしっかりした目的意識、ひとつでも多くのことを学び取ろうとする積極的な姿勢など大いに刺激されたと口々に言っていました。これも若い大学生の皆さんにとって、大きな収穫だったのだと思います。

このボストン研修2013は、Ted先生、Jian先生、Bruce所長、Rosa先生、Susan校長、Diane先生、Joe先生、通訳を担当して下さったYe先生とIkumi先生など、多くの先生方のサポートはもとより、その実現に向けて当大学設立以前よりHarvard Medical Schoolの先生方との関係構築を推進して下さった櫻井理事長、初回に引き続き支援して下さった佐藤学長、柚木学部長、鍼灸学科の諸先生方、事務局の方々のご理解とご協力のお蔭を持ち、実現いたしました。皆様に心より感謝申し上げます。





写真1 NESAsのSusan校長(右)とDiane先生(中央)



写真2 NESAsでの実技研修



写真3 NESAsの玄関にて



写真4 Kaptchuk先生のオフィスで

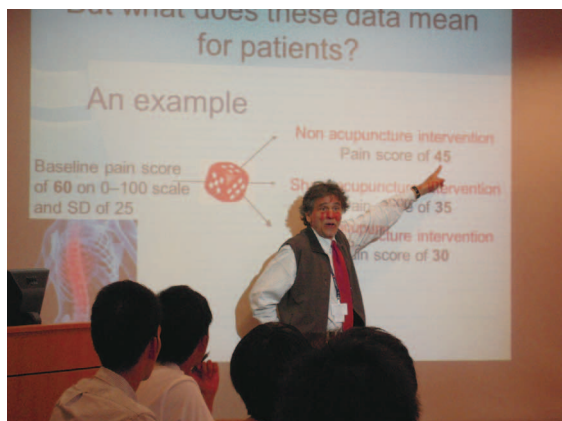


写真5 Kaptchuk先生の講義



写真6 Harvard Medical School にて





写真7 Kong先生より修了証授与



写真9 MGHのエーテルドーム



写真8 Martinos CenterにてKong先生とRosa先生を囲んで



写真10 Fenway Parkにて  
Bostonレッドソックス vs. N Y Yankees戦を観戦



写真11 ボストンパブリックガーデンを散策